

 <p data-bbox="301 241 665 338">みずみどり</p>	<p data-bbox="720 202 1214 241">2018年 1月15日 第124号</p> <p data-bbox="761 251 1173 289">発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p data-bbox="692 299 1255 328">年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会</p> <p data-bbox="692 328 1015 357"><a href="http://mizumidori2.eco.coocan.jp">http://mizumidori2.eco.coocan.jp</a></p> <p data-bbox="692 357 967 386">E-mail: <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a></p> <p data-bbox="692 386 1255 415">〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>
--	--

## 見て！あなたの近くで春の気配が・・・



左はドウダンツツジ、右はふくらんだアカシデの芽。どちらも2018年1月7日撮影。葉を落とした細い枝先の芽がだんだんふくらんで、さらにモジャモジャしてきます。

## 赤塚梅まつりに出展します みんな来てね

**3月3日(土)・4日(日)10時から3時まで。トンボ池前で**

### トンボ池を見てね

私たちはトンボ池で悪戦苦闘しています。12月から水を抜いて池底を掘る大工事をし、橋の右側を浸透池にします。目指すは田んぼのような浅い水辺です。

ここは赤塚城址の崖線の森の傍らにある自然豊かな場所です。今年こそ、昔はどこにでもいたオタマジャクシやトンボのヤゴがすめることを願っています。

### 今年もやりますノコギリ体験コーナー

また、子ども達には、公園の剪定枝や竹を一生懸命ノコギリで切って、枝からペンダント作り、竹から花入れや鉛筆立てをつくります。

## 区の公園から大木が消える？

まちなかの大きな木が一本、また一本となくなってきました。枯死ではありません。民家では、落葉、カラスが鳴く、日当たりが悪くなる、虫が出るなどの苦情を言われたり仄めかされたりするし、落葉の掃除も大変になり、ご近所に遠慮して切ってしまうようです。

板橋区の緑の基本計画「グリーンプラン」では、「長い年月を経た大径木等は地域の景観にうるおいと安らぎを与えてくれる・貴重な文化資源」と書かれていますが、ご近所の古木を「昔からあった木だね」とみんなが親しみ、愛する身近な木として残していけなくなるのは残念ですね。

では身近な区の公園の木はどうなっているのでしょうか。自宅近くの公園でも高木が切られています。板橋区の樹林のある公園はほとんどが斜面地です。斜面林の木も伐採されていきます。そのひとつ、私たちが7年間、毎月観察してきた日暮台公園の斜面林の高木が伐採され、森がスカスカになりました。明るくなってよかったと言う人も多いでしょうね。でも私は昨年9月初めにその現場を見たときは大ショックでした。翌月、伐採された木の種類と直径を記録しました。伐採された木は、枯れたヤマザクラを除くと元気な木が10本ほど、直径45cmのコナラと直径57cmのイヌシデのほかは直径60cm以上の大きな木で、樹種はイヌシデ、コナラ、イヌザクラ、スダジイでした。

12月に、切り株の年輪を数えてみました。伐採の傷等で年輪がわからないものも多く、数えられたものもわかりにくく正確ではありませんが、60～70本（樹齢60年から70年）、荒っぽい計算ですが、1年間に1cm位ずつ木が太っていく感じです。最高齢は樹齢85年のコナラでした。数十年前、ここは若い森だったのでしょう。戦争中この森の木々が燃料用に切られ、戦後に発芽して育った木かもしれません。人生半ばで伐採されてしまった木々を思いました。

切り株を見ると、樹皮の内側にスポンジのような層があり、これが形成層かなと思いました。葉で光合成してできたデンプンが栄養になって形成層で細胞分裂して幹が太っていくのです。春には大いに太り薄い色に、夏から秋に成長が衰えて濃い色に、冬は成長が止まる、そうして年輪ができるそうです。



1月、スダジイの切り株から新しい芽が出てきました(写真左)。

雑木林の管理では定期的に木を伐採し、切り株から新しい芽が出て木を更新しますが、直径が60cmにもなった太い木では芽が出ません。スダジイは萌芽力が強いのでしょうか。これが二代目になって育ってくれるといいですね。

12月19日、南部公園事務所の河島所長、佐藤さん、田口さんと公園の樹林地を見ながら、管理の現状をお聞きし、私たちの観察結果や希望をお話しました。大木は伐採されましたが、

次世代の木が育っていけるよう、私たちができることを考えながら、見守っていきたいと思っています。

### このままでははげ山に

板橋区の樹林地では、6月頃と9月頃の2回林内の下草を刈り、2月に枯れ枝・ひこばえ・細い木等を切って落葉を掃除します。2月の細い木の伐採と落葉清掃は、雑木林の管理を意識されているのかもしれませんが、それを何十年も続けた結果が今のほとんど高木だけの樹林地です。これは樹林地の**少子高齢化**です。

大きな木が倒れたら来園者や隣の住宅に被害がでます。そこで倒木のおそれのある（と思う）大木を伐採し、細い木はじゃまだから切り、下草も刈ったりすれば、はげ山化が進みます。下刈りによって禿げてしまった急斜面の土止めに、よそから持ってきたハマヒサカキが植えられた公園もありますが、低木や下草を切らなければ雨も浸透し、より安定した森を維持できます。木は、何百年も生きる植物です。花壇の花とは違います。50年、100年先のことを考えほしい。細い木、低木を大事にしないと森がなくなってしまいます。異常気象による集中豪雨が増えて、崖崩れのおそれのある急傾斜地が公表されていますが、公園の斜面林はすべて該当します。斜面林が将来コンクリートの壁にならないことを願うばかりです。

### サクラもあぶないかも

春になると、どこにいてもサクラ（ソメイヨシノ）が見られます。満開の桜は華やかです。そのサクラも植えられて数十年たち、枯れ枝も見られます。中台さくら公園の大きなサクラが何本も伐採され、太い枝が切られました。ソメイヨシノの高齢化問題を言う人もいます。

写真左は、美術館前の道路際のサクラの根元です。太い幹なのに、根元はコンクリートに固め



の方にだけ伸びています。木の根元の土もわずか。華やかだけど痛々しい。もっとやさしくしてほしいと木は言っています。

散歩がてら、近くの公園や道路の大きな木をウォッチングして下さい。木は元気でやっていますか（坂本 郁子）。

られ、わずかな土から根が盛り上がっていて苦しそうです。私たちは頭上の花を愛で、写真を撮りますが、根元にはなかなか目が行きません。

右は 少し前の写真ですが、お花見で賑わう石神井川の桜並木、狭い道の住宅側の枝は切られて、枝は川



## 「身近な自然と私」についてあなたのひと言を

都会人の自然観もいろいろ、家のそばにはいらぬと言う人も、楽しんでますよ、と言う人もいます。楽しみ方も人それぞれ。「私にとって身近な自然って何？」を考えてみたい。

### 身近な自然と私

猪鼻 昭二

最も身近な自然と言えば庭先で楽しんでいる植物になるが、長年の間に種類は増えたが手入れは怠っている結果、なんとも見苦しい（家族曰く藪状態）になっているが、半世紀も生き延びている草木もあり、分身のようで不憫に思ったりする。このような庭にやってくる昆虫や小鳥、そして住み着いている生物も鑑賞の対象だ。

次に近くにある自然は、買い物や運動を兼ねた散歩で眺める草木や生き物になるが、西に東に好く歩くコースは幾つかあり、少し横道に入ったりして街探検するので、近隣の地理には馴染んでいてと自負している。お気に入りの散歩コースの1つが赤塚公園の崖線から溜池へ出て城址に登ってバツタ広場をめぐり、浄蓮寺の裏手から植物園に入り、通り抜けて区役所の支所横から前谷津川緑道に出て、水車公園、槇通りを経て帰宅する1時間余りの道のり。街のコースでは街路樹や公園の樹木を眺めるのは勿論、花屋の店頭で季節の花木に見入って一時を過ごしたりする。見たり育てたりした花の写真をface bookなどの友人と見せ合い楽しんでいる。

崖線では春はニリンソウや最近殖えてきたヤマブキソウやオドリコソウ、そして桜やコブシなどの花を眺めることも出来、夏は高木のユリノキやトチノキ、ケヤキ、カツラや桜などの日陰があるので、この区域で一息つける。

最近崖から乗り出していたウワミズザクラやイヌザクラの大木が伐採されてしまって、特徴のある白い花穂やオレンジ色の実が見られなくなったのが残念だ。

秋には各所に殖えたキツネノカミソリやヤブミョウガなどが楽しみだが、一時目立つのがヒガンバナ、崖線に隣接の向口公園（四葉2丁目）の一角の急斜面に植栽された小群落があるが、入りくるんだ場所で訪れる人は多くないようだ。ニリンソウ自生地に接した平坦部（落葉高木の林）をヒガンバナの広場にしてはどうかと、かつて出席していた赤塚公園友の会で提案したが賛同を得られなかった。

その後ニリンソウ自生地内に散在しものを一か所に集め10㎡ほどの小区画で育てているが何時の日か林全域に繁茂するのを期待したい。日高市の巾着田には及ばないが、秋にも多くの人を訪れる名所になるのではないだろうか。



ヒガンバナ育成地、イスノキなど常緑の小灌木は撤去して全域がヒガンバナの園になることを期待したいのだが。

# 身近な自然と私

瀬田 政江

## その1

我が家の犬は雑種ですが大型犬です。家の裏にわずかな土の部分があって、そこに時々大きなフンがしてあって夏はすぐにハエが食べに？来ます。1日でも片付け忘れると、乾燥しかかったフンにフン虫が集まっています。フン虫（糞虫）とは文字通り動物のフンを餌とするコガネムシの仲間をいいます。風に運ばれる僅かな匂いに集まってくるようです。ピカピカ光ったセンチコガネの仲間のように、1つのフンに10匹以上くともあります、更に片づけ忘れるとフンは粉状になって匂いもなくなって土に混じっていくようです。自然はフンも無駄にしない様です。

放牧地では牛のフンに沢山のセンチコガネの仲間達が集まって食べて分解してくれているようです。新しいフンを好むセンチコガネが食べ終わると、古いフンを食べるセンチコガネ？が待っていましたと古いフンを食べるようです。放牧地が牛のフンで埋まってしまわないのは彼らがどんどんフンを片付けてくれるおかげのようです。

センチコガネ:ピカピカしたきれいなコガネムシがフンの中から出てくるとちょっと感動します。



## その2

犬の散歩コースに大きな駐車場があって、ネット沿いにエノコログサが生えています。夏の終わりから秋にかけて実るころ、早朝からスズメがチイチイと群れています。集まって実を食べているようです。気を付けて見てみると、歩道の脇や公園の隅に残されたエノコログサにもスズメが集まっています。スズメにとってエノコログサは大切な食事のようです。なんでも草を刈って人間が見た目だけをきれいにしようとするとスズメたちの餌を奪ってしまうのではないのでしょうか。

都会のスズメが減ったと言われています、刈り過ぎる草は注意が必要かと思います。

私にとって自然とは旅行に行った時の海や山の大自然はもちろんですが、毎日見る身近な草や虫などはもっと大切です。



公園や道ばたの雑草も立派な「ピオトープ」  
この駐車場脇のエノコログサの実を食べていたスズメ。

## ベイトトラップに落ちた虫

釣巻岳人

昨年夏に「いたばし水と緑の会」が赤塚公園城址地区で実施したベイトトラップによる昆虫調査で得られた昆虫類について少し書いてみよう。実施場所・日時は板橋区赤塚5丁目赤塚公園城址地区、ベイトはカルピス、2017年7月22日回収である。

### オオモンクロベッコウバチ（ベッコウバチ科）

ベッコウバチ科はクモを狩り、地面に掘った穴などに獲物を運び込み幼虫の餌とするグループである。この習性により最近ではベッコウバチ科はクモバチ科と呼ばれることがある。この科のハチは狩りをするのは雌のみで、クモを捕まえるとその場で麻酔し、動けなくなったクモを適当な場所に運びそこに巣穴を掘る。クモの体表に卵を産みつけると親ハチは巣を去り、孵化した幼虫は親の世話を受ける事無く麻酔されたクモを食べて育つ。

オオモンクロベッコウバチは板橋区内に生息する唯一の大型ベッコウバチである。大型種なので狩るクモも大型のものである。板橋区立美術館脇を流れる旧ホテル水路に多いイオウイロハシリグモを獲物としていると思われる。板橋区内にはオニグモやコガネグモ、ジョロウグモなどの大型クモ類が以前は普通に生息していたが、近年はジョロウグモ以外の大型クモ類は非常に少なくなってしまった。オオモンクロベッコウバチも私は赤塚公園以外では見たことがない。



私は今までベッコウバチ類がベイトトラップに入ったのを見たことがない。成虫は花の蜜等を集まるようなので（狩バチ類の成虫が何を食べているのかは図鑑類に書いてない、知らぬは私だけなのでであろうか）カルピスの匂いにつられたのであろうか。それともオオモンクロベッコウバチは後ろ向きになって獲物を引きずり歩くので、前方不注意で落ちてしまったのであろうか。トラップ内に獲物が有ったかどうかを調べなかったのは迂闊であった。

### オオモンシロナガカメムシ（ナガカメムシ科）

森林の地表部で植物の実や地下茎などを吸汁する種らしい。大きさは1cmぐらいナガカメムシ科としては大きい種である。区内各地で普通に見られトラップにもよく入る種である。

### アオオサムシ（オサムシ科）

ミミズなどを捕食する大型（3cmぐらい）の昆虫で緑色に輝いている。飛ぶことは出来ないが素早く歩き回り、獲物を探す。夜間に活動し、ベイトトラップにも良く入るが、春先には昼間歩いていることも多い。森林性の種だが、周りに草丈の高い草原があるような環境を好むようだ。オサムシ科オサムシ亜科（科の一つ下の分類単位）の種で現在も東京都区内に生息する唯一の種である。2000年以降の板橋区以外の都区内生息地は皇居と明治神宮である。正式な発表は無いが、練馬区の石神井公園と光が丘公園（筆者採集）でも見つかっているようだ。

今回のトラップ調査では本種が3匹に入り、元気が良かった2匹は元の場所に放し、死んでいた1匹（♀）は標本（7頁右上の写真）として残した。赤塚公園では現在も安泰のようである。

本種は1960年代前半には板橋区南部の双葉町氷川神社や大谷口の日大病院裏に生息しており、日大病院裏の標本は現存する。1980年代では西台3西徳第二公園、東新町2安養院、大谷口2向原で記録されている。2000年には成増5タイヤ公園、中台3サンシティ、西台1-7(環8工事により消滅)の記録がある。赤塚公園では現在も生息するが、他にはどこか生息地が残っているだろうか。西台公園付近や成増の白子川沿いなどに生き残っているかどうかを確認してみたい。



### コブマルエンマコガネ (コガネムシ科エンマコガネ亜科)

エンマコガネ類は全て哺乳動物のフンを食べるいわゆるフン虫である。現在の板橋区内には本種とクロマルエンマコガネ、ツヤエンマコガネの計3種が生息する。大きさは3種とも1cm足らずで良く似ている。3種の判別は難しいので、下の写真(コブマルエンマコガネ♀)のような黒くて丸い虫がフンに集まっていたらエンマコガネ類がいたと言っておけばよい。姿は似ているがこの3種は微妙に生息環境が異なるようである。コブマルエンマコガネは一番分布範囲が広く、むき出しの地面があり、犬のフンが放置されている場所があれば市街地でも見つかる。ツヤエンマコガネは最も生息地が限られ、やや状態の良い樹林地で見つかることが多い。クロマルエンマコガネはこの2種の間ということであろう。



板橋区内で見つかる他のフン虫はコガネムシ科マグソコガネ亜科のマグソコガネとセマダラマグソコガネである。マグソコガネは荒川河川敷以外では見つからないがセマダラマグソコガネは区内全域で犬のフンに集まっている。センチコガネ科のセンチコガネも小規模の樹林地には大抵生息する。

フン虫類なのになぜカルピスのトラップに入るのかと疑問に思う方もいるであろう。実は上記に挙げたフン虫類の内セマダラマグソコガネ以外はフンの他に腐った動植物質も利用しているのである。上記の種の幼虫もフン以外で育つのかどうかについては私は知識を持っていないが、センチコガネの成虫が腐ったキノコにきた例や、エンマコガネ類が腐肉に集まった例は見ている。

昭和30年代以前、牛馬が農耕の主役であった時代には純粹のフン虫であるカドマルエンマコガネやウスイロマグソコガネ、コマグソコガネなどが板橋区にも生息しており標本も残っているようだ。自宅近くの石神井川沿いの道にヤギが繋がっていたり、荒川土手には牛馬が杭に繋がれ草を食べていた光景を見ていた世代だが、フン虫類については何の記憶もない。肥桶を積んだ台車を引いていた馬のフンに小さな虫が集っていたのを覚えている。多分マグソコガネ類だったのであろう。便所は汲み取り、道路は未舗装の時代、板橋9丁目(現在栄町)の光景である。

### コバネヒシバツタ (ヒシバツタ科)

家の庭や道路脇の草むらに小さくて茶色の飛べないバツタがいた。クソバツタと子供の頃呼んでいたが子供にも相手にされない昆虫であった。クソバツタはハラヒシバツタという正式な名があり、似たような種類が数種いると知ったのは10数年前のことである。ハラヒシバツタは草丈の低い草原に住むが、コバネヒシバツタは樹林地の林床に住み、東京都区部の記録は少ない。外見は似ているが生息環境は明確に異なり、本種は自然度の高い樹林地を指標する種である。

# 活動のお知らせ

運営委員会：1月27日（土）12：30～13：30

2月24日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先：坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月17日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 活動予定いろいろ

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察。  
集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

1月27日（土）10：00～11：30 トンボ池の大工事をやります。長靴が必要です。

2月17日（土）10：00～11：30 トンボ池の観察・点検

2月24日（土）10：00～11：30 バッタ広場ササ刈り・クズ抜き

3月17日（土）10：00～12：00 未定

## 2 日暮台公園樹林地の観察

2月10日（土）、3月10日（土）いずれも10：00～11：30 日暮台公園前集合  
（連絡は坂本 090-4618-1295まで）

木が切られて、明るい森になりました。早春の林縁を観察し、これからどのように変化していくか見ていきます。日暮台公園の「ちょっとだけビオトープ化」ができないかも考えます。

## 3 環境なんでも見本市

環境活動団体・企業・学校などの展示・ワークショップ・クイズ。私たちは身近な自然をテーマに出展します。展示の準備のため3日は10時集合。他の団体のコーナーも見てね。

2月3日（土）12：00～16：30

2月4日（日）10：00～16：00

会場：エコポリスセンター（板橋区前野町4-6-1）

### ●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。